

★最新介護医療情報★

介護支援ロボに公的保険適用 厚労省検討 20年度に効果測定 (2019.8.12 配信)

人手不足や職員の高齢化が課題の介護の現場。保険の適用対象となるロボットを広げ、介護の生産性を高める。

厚生労働省は「パワーアシストスーツ」などの介護支援ロボットを公的保険制度の適用対象にする検討に入る。2020年度に効果を見極め、21年度の介護報酬改定で対象に加えるかを判断する。介護施設では人手不足や職員の高齢化が課題だ。保険の適用対象となるロボットを広げ、介護の生産性を高める。

効果測定に必要な関連費を20年度の概算要求に盛り込む。介護作業の負担軽減や効率化の効果を認めれば、21年度の介護報酬改定に反映する。

現在、ロボットの導入が介護報酬で加算されるのは「見守りセンサー」を導入する特別養護老人ホームなど一部に限られる。介護者の腰に着けて作業を支援するパワーアシストスーツや、要介護者の歩行を支える「アシストカート」などは、都道府県の基金を通じて導入時に1機器あたり最大で30万円程度を支給するにとどまる。

ロボットの導入を後押しする背景には介護業界の人手不足がある。介護業界で働く人は16年度時点で190万人。厚労省の試算では25年度に245万人が必要で、55万人が不足する。18年度の介護関係者の有効求人倍率は全職種の2.7倍に達し、採用難が深刻だ。介護業界はロボットによる効率化が欠かせない。

政府は15年時点で24億円強だった介護ロボットの市場規模を20年までに約500億円に成長させる目標を掲げた。ロボットが普及すれば、技術革新による単価の低下や性能の向上につながることも期待される。

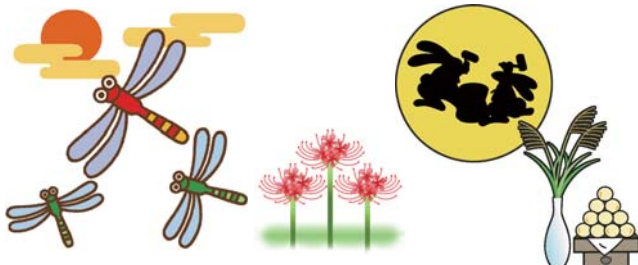
ポケモンGO、認定1号に スポーツ庁の運動推進制度 (共同通信社 2019.7.31 配信)

スポーツ庁は日常生活でウォーキングなどの運動を推進する企業や団体に独自の「お墨付き」を与える制度の第1号として、スマートフォン向けゲーム「ポケモンGO(ゴー)」を手掛ける米ナイアンティックの日本法人を認定した。鈴木大地(すすき・だいち)長官は30日、村井説人(むらい・せつと)社長との会談で、屋外で遊ぶポケモンGOをきっかけに「外に出て歩くことはスポーツの第一歩だ」と強調した。

ポケモンGOは架空の生き物「ポケモン」を外出して公園や駅前などで捕まえるゲーム。2016年に配信後、日本でも大ヒットした。村井社長は「外に出ることで人との交流が生まれる」と指摘。街中での飲食も増えるとして「地域経済にも影響を与えることができる」と話した。

地域ルピナス講習会のお知らせ

第25回城東地域リハビリ勉強会
⇒歩行の重要性について～理学療法士の視点～
開催日：令和元年9月20日(金)
時間：午後6時30分～午後7時30分
場所：城東区民センター 中会議室
講師：ルピナス理学療法士 瀧本将史



第36回忠岡地域リハビリ勉強会
⇒ケアマネージャーさん必見！
生活動作に結び付くリハビリ
開催日：令和元年9月20日(金)
時間：午後6時30分～午後7時30分
場所：忠岡町文化会館 地下会議室
講師：ルピナス理学療法士 今井貴敏



第66回東大阪地域リハビリ勉強会
⇒ポジショニングと基本動作の介助方法について
開催日：令和元年10月17日(木)
時間：午後6時00分～午後7時00分
場所：東大阪市立東体育館 第三研修室
講師：ルピナス理学療法士 山口勇樹